

いのち

題字：土岐市長 大野信彦

第4号

発行：平成23年1月1日

土岐市立総合病院



外来診療表

平成23年1月

診療科名		月	火	水	木	金	備考
内科	1診 内分泌	柴田 みゆき	川喜田 節代	安田 詩奈子	柴田 みゆき	川喜田 節代	
	2診	(消化器) 下郷 友弥	(呼吸器) 日比野 佳孝	(循環器) 奥村 健二	(血液内科) 山内 辰也	(呼吸器) 山下 良	
	3診 新患	若林 宏和	渡壁 恭子	柴田 みゆき	保井 光仁	南堂 吉紀	
	5診	(総合内科) 保井 光仁	(血液内科) 山内 辰也	(消化器) 南堂 吉紀	(循環器) 若林 宏和	(血液内科) 渡壁 恭子	
	6診 循環器	森下 佳洋	服部 和樹	塚本 英人	服部 和樹	塚本 英人	
	7診 消化器	白井 修	渡辺 武人	吉村 透	白井 修	渡辺 武人	
	8診					(内分泌) 安田 詩奈子	
	神経内科	2診	三竹 愛子	土川 聡		三竹 愛子	土川 聡
3診		高橋 典三	大塚 康史	高橋 典三		大塚 康史	
内科10診			河野 親夫				
腎臓内科		中嶋 貴	村山 慎一郎	三輪 真幹	中嶋 貴	村山 慎一郎	
	外来ドック室	清水 豊	清水 豊	清水 豊	清水 豊	榊原 聡	*予約制
整形外科	禁煙外来 (PM)	(隔週)					
	1診	大石 央代	西本 聡		西本 聡	西本 聡	
	2診	市瀬 彦聡	吉岡 淳思	山村 俊介	下山 哲生		
外科	特殊外来 (PM)					中川 研二	
	1診	伊藤 昭宏	榊間 勝利	丹羽 信之介	(血管外科) 川西 順	榊間 勝利	
	2診	多和田 雄介	丹羽 信之介	多和田 雄介	伊藤 昭宏	(血管外科) 川西 順	
小児科	呼吸器外科外来 (PM)					(呼吸器外科) 沼波 宏樹	
	1診	元吉 史昭	元吉 史昭	虫明 亨祐	虫明 亨祐	元吉 史昭	
	2診	虫明 亨祐	虫明 亨祐	元吉 史昭	元吉 史昭	虫明 亨祐	
耳鼻咽喉科	特殊外来 (PM)	(腎臓・予防注射) 元吉 史昭	(喘息・アレルギー) 元吉 史昭	(心臓) 虫明 亨祐	(喘息・アレルギー) 元吉 史昭	(乳児・成長) 虫明 亨祐	
	1診	大橋 雅玄	大橋 雅玄	大橋 雅玄	大橋 雅玄	第1・3・5 大橋雅玄 第2・4 水谷俊太郎	
	2診	水谷 俊太郎	水谷 俊太郎	水谷 俊太郎	水谷 俊太郎	植田 広海	
眼科	1診	山田 潔	山田 潔	山田 潔	山田 潔	山田 潔	
	2診	望月 里恵	望月 里恵	望月 里恵	望月 里恵	望月 里恵	
産婦人科	1診	田中 隆行			中村 智子	田中 隆行	
脳神経外科	1診	野田 伸司	北島 英臣	野田 伸司	中川 二郎	北島 英臣	
形成外科	1診	飯島 由貴	飯島 由貴	飯島 由貴	飯島 由貴	飯島 由貴	
泌尿器科	1診	大菅 昭秀	金井 茂	山本 徳則	大菅 昭秀	金井 茂	
歯科		横井 彰	松本 享	横井 彰	横井 彰	横井 彰	*予約制
	1診	(初診)加藤 美樹	加藤 美樹	加藤 美樹	加藤 美樹	加藤 美樹	
精神科	2診		曾根 靖貴	鈴木 幹央		(特殊外来) 関 正樹	*予約制
	1診	坂 義経	坂 義経	坂 義経	坂 義経	坂 義経	
皮膚科	2診						
	1診	松原 一仁	松原 一仁	松原 一仁	松原 一仁	松原 一仁	
放射線科	治療			森田 皓三			
リハビリテーション科		当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	

この色表示は、非常勤の医師を示しています。

- ◇受付時間 午前8時30分～午前11時30分まで
- ◇休診日 土日祝祭日、および年末年始(12月29日～1月3日)
- ◇面会時間 午後1時～8時まで

2次救急当番のお知らせ

東濃厚生病院(瑞浪市)と輪番制で、土岐市、瑞浪市の2次救急当番を行っています。時間外や土曜日、休日、祭日については、毎週(月)(水)(木)と第2、4(土)(日)が当院の2次救急当番になっており、救急車の受け入れを行っています。(診療科によっては受け入れられない場合があります。)

*各診療科目担当医師については、都合により代診させていただきます場合があります。
*印の診療科は、予約制となっております。
(初診でかかれる方は、あらかじめお電話でご予約をお願いします。)

地方の公立病院の社会的使命

土岐市立総合病院 副院長 奥村 健二



まず、自己紹介をさせていただきます。私は生まれも育ちも可児市で、総合病院には約三十年間勤務しました。専門は循環器内科です。今後、宜しくお付き合いをお願いいたします。

さて、土岐市はJRの駅が東濃地方では唯一ひとつで「土岐市」しかありません。以前からお住まいの方は不思議に思われなくても、駅の名前に「市」が付くのは非常にまれで、この近くでは「伊那市」「伊勢市」まで行かないとありません(四日市は市が地名ですから別です)。「土岐」というJRの駅名は全国にないでしょう。新参者の私は当地が陶磁器の産地として有名であることは知っていました。が市のそれぞれの地区で生産する製品にも特徴があり、歩いてみるとなるほどというモニユメントがあり楽しくなるような街であることは知りませんでした。また、住民の方もほとんどが昔からお住まいの方で、思ったほど名古屋のベッドタウン化はしてないようで鄙びた街という印象です。

さて、全国の公立病院は度重なる診療報酬の改正と医師研修制度など医療環境の変化のため瀕死の状態がこしばらく続いております。総務省から2007年「公立病院改革プラン」の策定を義務付けられ、土岐市立総合病院も現在のプランの元で二年目を迎えました。当初予測していましたが、成果には達していません。また、赤字を垂れ流し続けているような公的病院は現在の医療の仕組みでは更に苦しい経営を強いられ、やがては消滅せざるを得ません。すでにそのような廃止候補の病院が数多くリストされています。

しかし、よく考えてみてください。全国には、また、岐阜県には自分たちの病院だと思える病院のない市民が多くいます。そう思うとこの総合病院はこの街には過ぎた病院かもしれません。しかし、住民の方がどのような医療を希望されているかということを考えて、病院の職員はまだまだ十分に対応しなければいけないと考えております。経営改善の努力とともに、住民のための、住民に満足して頂く医療を目指し、信頼される病院にしたいと思います。住民の方には是非これが私たちの病院だといっていただけ病院にしたいものです。

生理検査部門

■ 生理機能検査学 / 心臓超音波検査

心電図、負荷心電図は、不整脈、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、心肥大等の診断に役立てる検査です。血圧脈波検査は、両手・両足の血圧を同時に測定し、血管の硬さ（動脈硬化）や血管の狭窄の有無を調べます。24時間ホルター心電図は、日常生活（工作中・睡眠時）における心電図を24時間連続記録し、不整脈を監視したり、心臓に負荷がかかった時に心電図変化が現れたりしないかを監視します。肺機能検査は、息を吸ったり吐いたりして肺機能（肺活量等）を調べます。担当技師の掛声に合わせて吸ったり吐いたり、最大限の努力をお願いします。脳波検査は、頭部全体にクリームなどで電極を装着し約40分ベットに横になり、脳からの電気活動をとらえ、てんかんや脳死判定など脳の活動状態を調べます。心臓超音波検査は、超音波を用いて心臓の形態、動きなどを画像にして心臓の機能を観察し、先天性心疾患（心房中隔欠損など）や弁膜症（逆流・狭窄）・心筋梗塞・心筋症など様々な心臓疾患を調べます。その他、四肢の動・静脈血管エコー及び頸動脈エコーの検査も行っています。

病理診断検査部門

■ 病理学 / 細胞診検査

病理組織検査は、手術や生検で採取した組織を標本にし、病理医が顕微鏡で観察してその組織が良性か悪性かなどの確定診断を行います。細胞診検査は、細胞を採取する時に痛みを伴わず採取できる喀痰や尿などのほか、針を刺すなどして体中の細胞を採取し、検査を行います。術中迅速病理組織診断及び、術中迅速細胞診検査は、手術中に組織が良性か悪性かを診断するほか、臓器の切除範囲及び術式の変更を決めるなど、極めて重要な検査です。手術室から病理検査室へ、専用のエレベーターで直接届けられた組織を、直ぐに凍結して標本を作製し、診断を行い、組織提出から約20分程で執刀医へ結果を報告します。病理解剖は、患者様の治療を行うなかで、主治医は症状、診断あるいは治療の点で、未解決の問題を抱える事があります。これらの問題を解決する為に、お亡くなりになられた患者様の病理解剖を行います。そして病理解剖で得られた情報を基に、主治医と病理医だけでなく全科の医師や医療スタッフも参加して、解剖の結果を基に死亡に至る経過との関連を調べ、治療方法などについての検討を行い、今後の治療や医療の発展に活かします。

各部署のご紹介

検査部

今回からシリーズで総合病院各部署のご紹介をさせていただきます。

検査部の概要

検査部は、検体検査室・生理機能検査室・病理診断検査室・解剖室等で構成され、床面積は約899.5㎡で、病院全体の約5.4%を占めています。また、業務内容は検体検査部門・生理検査部門・病理診断検査部門に大別されます。検査部で行う臨床検査の役割は、診断、治療方針の決定、治療効果の追跡、副作用の監視、予後と治癒の判定の為に、基本的な日常検査や特殊検査から、それぞれ必要な情報を医師に提供することであるとされています。

現在検査部は、検査部長（病理医・臨床検査専門医）1名、臨床検査技師18名と事務員2名がそれぞれの部門で業務を分担し、N S T、糖尿病教室などにも積極的に参加し、検査部の「常に研鑽し、高い専門性を維持し、適切な臨床検査データの提供と管理に努め、医療及び公衆衛生の向上に貢献する。」という基本方針の下、日々業務に励んでいます。又、緊急検査対応は、当直制により24時間体制で行い、病理検査室は、手術室と専用のエレベーターで連携し、術中の迅速組織診断及び、細胞診検査を、速やかに行っています。



検体検査項目の名称や結果の見方など簡単にまとめたパンフレットを、総合案内や内科外来などに配備してあります。是非ご自分の検査結果の参考にされ又、検査の項目についてのご質問なども、お気軽に検査部受付にお申し出ください。

検査部内各部門の検査内容の紹介

各部門どんな検査をしているのか、簡単に紹介します。

新しい医師を紹介します



下呂温泉病院より

脳神経外科部長 野田 伸司

昨年8月に脳神経外科部長として赴任いたしました。昨今、高度先進医療など様々な診断法、治療法が開発されてきていますが、その設備費は巨額なことが多く、実施可能な施設は限られます。当科では地域の中核医療を担うべく、医療設備、人材を整え、また他院とも連携して診療しています。今後とも宜しくお願いいたします。



岡崎市民病院より

内科医師 森下 佳洋

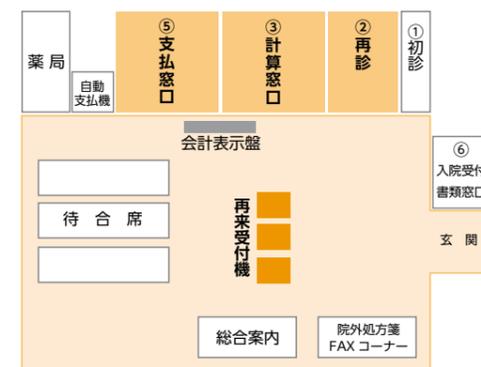
10月より循環器科で勤務させていただくことになりました。循環器領域を中心とした内科診療に携わってまいります。この地域の医療に貢献できるよう努力いたしますので、宜しくお願い申し上げます。

11月1日から「受付方法」が変わりました

11月1日から電子カルテシステムを導入しました。それに伴い予約のある方の再診受付の方法や玄関ホールの各受付の配置などが変わりました。

以前は予約のある方の受付は、診療科の窓口で行っていましたが、11月1日からは玄関ホールの再来受付機（3台あります。）か、②再診窓口で行います。受付を行うと、診察・検査などの順序が記載された用紙（基本スケジュール）が発行されますので、この用紙を持って診療科や検査室の受付へ行きます。診察・検査などがすべて終了しましたら③計算窓口へ基本スケジュールを提出し、会計待ち番号用紙を受取ります。会計表示盤に番号が表示されましたら⑤支払窓口で会計をして領収書・診療報酬明細書・予約券・薬の引換券を受取ります。

【1F 玄関ホールの説明図】



検体検査部門

■ 一般検査

尿の成分や細胞、便潜血、髄液や腹水・胸水などのスクリーニング検査を行っています。腎臓では、一日に約180Lの血液が濾過され、体に不必要な成分が尿中に排泄されます。その為、尿中の成分を調べることで、腎臓病だけでなく、糖尿病、肝炎など、色々な病気を見つける手助けとなります。そして、尿中の細胞を検査することによって、腎炎、尿路感染症、尿路結石、悪性腫瘍などがみつかることもあります。

便の潜血検査は、大腸癌の早期発見に、髄液検査は、髄膜炎の重症度や予後の把握、腹水・胸水検査は、細菌性なのか、癌性か、浮腫によるものかなど、おおまかな原因を知ることが出来ます。

■ 血液検査学 / 輸血検査

血液検査では、血液が固まらないように抗凝固薬を入れた採血管に採取した検体を用いて、血球分析装置で赤血球、白血球、血小板などの数を計測します。白血球の中の細胞の比率を調べ、形態を顕微鏡で調べます。また、血液凝固線溶測定装置を使って止血検査という出血時に血が固まる能力を調べます。

血液の中の細胞でまず見た目、「赤い色」の正体は体内の細胞に酸素を運ぶ「赤血球」で、男性の場合1マイクロリットル中に約450万、女性で400万個程あり、ヘモグロビン量に関連しその数が少ないと貧血になります。次に「白血球」ですが、白血球数の存在割合は赤血球の約1000分の1と少ないので血液の色に反映しません。血液を遠心分離処理をするとその名のとおり「白い色」の層があり、その正体が白血球達です。白血球には、色々な大きさがあり、色々な役目を持っています。身体に侵入した細菌を食べる「好中球」、病気への抵抗力を発揮する「リンパ球」、アレルギー反応に関与する「好酸球」、ウイルスを殺したり、リンパ球に情報を伝える役目を持つ「単球」等です。私達の身体は彼ら白血球によって外敵から守ってもらっているのです。病気の白血球（正常でない白血球）が無秩序に増え続けて止まらない状態を急性白血病と言い骨髄性、リンパ性、単球性などに分けられます。また、同じく白血球の病気で慢性

白血病という正常の細胞と病気の細胞が混在して、急速には進行しないものもあります。そして、血液の中にはもう一つ「血小板」があります。出血を止める作用を持っています。少ない状態は「血小板減少症」と呼ばれ皮膚に出血斑などを生じ、多すぎる状態を「血小板増多症」と呼び血栓などが出来易くなります。

■ 臨床化学 / 臨床免疫学

臨床化学・免疫検査では、主に血液中の水溶性（血清・血漿）の部分を検体として用い、臨床化学自動分析装置等で、AST、ALT、LD、ビリルビン、総コレステロール、HDL コレステロール（善玉）、LDL コレステロール（悪玉）、尿酸、総蛋白、中性脂肪等 肝臓・腎臓・膵臓・心臓などのいわゆる五臓六腑に関する項目、消化器・呼吸器疾患、脂質異常や、炎症マーカーのCRP、自己抗体のリウマチ因子などの項目の測定を行っています。

また、全自動免疫測定装置では、感染症（A型肝炎・B型肝炎・C型肝炎・梅毒・HIV等）検査、肝癌・乳癌・大腸癌・前立腺癌などの腫瘍マーカー（CEA・AFP・CA19-9・PSA等）検査、甲状腺ホルモン（TSH・FT3・FT4等）検査や心筋マーカーなどの項目の測定を行っています。

■ 微生物学

主に、感染症の原因となっている細菌などを探し、それらを退治できる薬剤を探し出す検査をしています。

検体をスライドガラスに塗抹し染色して顕微鏡で細菌の有無及び、種類を観察します。

染色法の一つにグラム染色があり、赤色に染まるとグラム陰性菌、紫色に染まるとグラム陽性菌に分類し更に、菌の形状から桿菌・球菌などに分類します。採取した検体を、目的とする細菌等が好む栄養を含んだ培地やブイヨンなどで培養し、増菌し同定検査そして、薬剤感受性検査から一番よく効く薬剤を探し出します。